

「家庭基礎」学習指導案

広島県立廿日市高等学校
教諭 砂田 景子

本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事 松田 百合）

生活体験の少ない生徒に、日常的で身近な「洗濯」に関する知識を身に付け、理解を深めさせるため、疑似体験的な活動や思考をゆさぶる問いかけを取り入れた展開となっている。授業の後半に、生徒自らの今後の洗濯の在り方について考えさせる活動を取り入れ、学習内容を自ら振り返り、思考するよう工夫している。

- 1 日 時 平成30年10月19日（金） 第5限 13:20～14:10（50分）
- 2 学年・学級 1年3組 41名（男子 17名 女子 24名）
- 3 場 所 HR教室
- 4 題 材 名 被服材料と管理 ～洗濯のしくみ～
- 5 題材について

（1）題材観

被服が多様化し、被服選択の幅が以前より広がった。そのため、消費者自身の被服管理が難しくなっており、被服選択や管理に関する知識・技術の習得がますます重要性を増してきている。

本題材は、高等学校学習指導要領家庭 科目「家庭基礎」の2内容（2）生活の自立及び消費と環境のイ 被服管理と着 装 により、被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的、基本的な知識と技術を習得させ、目的に応じて着 装 を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができるようにすることを目標とするものである。

（2）生徒観

グループ活動をはじめとして、授業での様々な活動に意欲的に取り組むことができるクラスである。特に、このクラスは積極的に発言をする生徒が多く、個性豊かな印象がある。

男女共おしゃれに興味のある生徒が多く、衣服の適切な選び方や管理の仕方への関心も高い。しかし、雑誌やテレビなどを主な情報源としているため、被服に関する知識はデザインなど見た目に関する内容に限られている。そのため、多くの生徒が、品質表示を確認せずに被服を購入している状況である。また、洗濯を日常的に行っている生徒は、41人中2人である。

卒業後は親元を離れ、1人暮らしを希望する生徒が多いことから、被服管理に関する知識と技術の習得の必要性は高い。

（3）指導観

被服の入手、洗濯、保管など衣生活を自ら管理する知識や技術を習得させるため、日常生活における具体例を挙げることで、興味・関心を引き出しながら、将来の被服管理についてのイメージを膨らませるようにしたい。具体的には、制服や体操着など身近なものを例に示し、考えやすい授業展開となるよう工夫する必要がある。また、実体験の少ない生徒が多いので、手洗いやアイロンがけなど体験的な活動を取り入れ、実践力を高めさせたい。

健康で快適な衣生活を主体的に営むことができるよう、社会に出る前の高校生のうちに、自立に向けて思考を深めさせる。具体的には、個人→ペアまたはグループ→クラス全体 という、思考→共有の流れを大切にし、考えさせる場面を随所に設け、自分事として捉えられるような声かけをする。

以上のように、衣生活を自ら管理する知識や技術を習得できるよう、主体的・対話的で深い学びを基本とする授業を展開したい。

6 題材の目標

被服管理に必要な被服材料、被服構成、洗濯などについて関心を持たせ、基礎的な知識と技術を習得させるとともに、目的に応じて着 装 を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができるようにする。

7 題材の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・被服管理に必要な被服材料、被服構成、洗濯などに興味を持ち、関心を持って学習活動に取り組んでいる。	・健康で快適な衣生活を営むための、望ましい被服管理について考え、表現している。	・健康で快適な衣生活を営むための技能を身に付けている。	・被服管理に必要な被服材料、被服構成、洗濯などの基礎的・基本的な知識を身に付けている。

8 題材の指導計画（全3時間）

次	学習内容 (時数)	評価					評価方法
		関	思	技	知	評価規準	
1	洗濯のしくみ (1時間) 本時		◎		○	・洗濯方法の特徴や手洗いの方法、汚れが落ちるしくみ等について理解している。 ・今後の衣生活のあり方について、思考を深めている。	ワークシート、定期考査
2	被服の選び方 (1時間)	○	○		◎	・被服材料や被服の構成及び身体寸法と衣服サイズの関係について関心を持ち、基礎的な知識を身に付けている。 ・被服材料の性能改善と着心地について考えることができる。	ワークシート、定期考査
3	被服の手入れと保管 (1時間)		○	◎	○	・適切にアイロンがけを行うことができる。 ・実生活に活用するための知識を身に付けている。	ワークシート、観察、定期考査

9 本時の展開

(1) 本時の目標

洗濯方法の特徴や手洗いの方法、汚れが落ちるしくみ等について理解するとともに、今後の衣生活のあり方について、思考を深めることができる。

(2) 本時の評価規準

- 洗濯方法の特徴や手洗いの方法、汚れが落ちるしくみ等について理解している。 【知識・理解】
- 今後の衣生活のあり方について考え、グループ内で積極的に意見交換したり確かめ合ったりしながら思考を深め、自分の考えをまとめ、表現している。 【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意事項（◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準（評価方法）
導入 5分	○本時の目標を理解する。 ○洗濯に関する質問に対し、予想してみる。	○ワークシート配付 ○洗濯を、自分事として考えさせる。	
展開1 25分	○湿式洗濯と乾式洗濯の特徴を理解する。 ○手洗いの方法をペアで疑似体験し、手洗いの良さを考える。 ○洗濯用石けんと洗濯用合成洗剤の違いを知る。 ○粉末洗剤と液体洗剤とジェルボールの特徴を知り、今後の洗剤の選び方を考える。 ○界面活性剤が、どのように働いて油汚れが除去されるのかを理解する。	○疑似体験の際に、それぞれの手洗いの特徴の説明を行う中で、生徒に手洗いを部分的に取り入れることの良さに気付かせる。 ○溶け方・洗濯後のカスについて説明し、環境問題に触れる。 ◆気になる洗剤のメリットやデメリットに、再度注目させる。	○洗濯方法の特徴や手洗いの方法等について理解している。 【知識・理解】(定期考査)
展開2 15分	○洗濯で失敗しないための 押さえておきたいポイントを、グループで考える。(グループ → クラス全体)	◆再度、学習内容を振り返らせたり、失敗例を挙げたりし、考えるヒントを示す。	○汚れが落ちるしくみについて理解している。 【知識・理解】(定期考査)
まとめ 5分	○本時の学習内容を振り返り、今後の実生活に活かそうと思ったことを、ワークシートに記入する。 ○次時の学習内容を理解する。	○洗濯をすることは、健康で快適に過ごすためには必要不可欠であることを伝え、洗濯の必要性を改めて認識させる。 ○次時の学習内容を伝え、ワークシートを回収する。	○今後の洗濯のあり方について考え、グループ内で積極的に意見を交換したり確かめ合ったりしながら思考を深め、自分の考えを表現している。 【思考・判断・表現】 (ワークシート)